

発明の名称: 新規なペプチド誘導体及びこれを含む医薬

利用・用途・応用分野

無料開放特許

家畜の繁殖用ホルモン製剤、ホルモン感受性癌の予防・治療・転移抑制剤

目的・課題

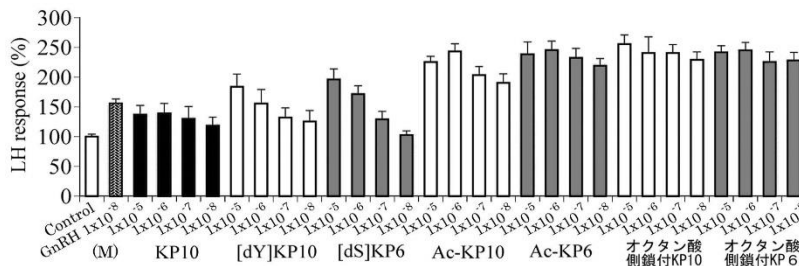
解決ポイント

家畜の繁殖に発情同期化・過排卵処置に多用される異種のホルモン製剤は、反復投与により抗体が作られ、結果的に製剤効力の低下が問題となっている。この問題に対する優れたホルモン製剤、ホルモン感受性癌の予防・治療、転移抑制剤としたより作用の強いキスペプチン剤を提供することを課題とする。

キスペプチンの活性中心である構成アミノ酸を特定の修飾基で修飾することにより、ウシ下垂体前葉細胞からのLH分泌量の指標において、予想外にも天然型キスペプチンより優れた生理活性を示すペプチド誘導体を見だし、本発明を完成するに至った。

研究概要・アピールポイント

- ◆より生理活性の強いキスペプチン剤を用いると、家畜繁殖における交配技術の向上、ホルモン感受性癌の予防・治療及び転移抑制が期待される。
- ◆発情同期化・過排卵処置に多用されてきた異種ホルモン製剤の反復投与による好ましくない免疫反応誘発やホルモン製剤の効力低下が回避可能となり、より侵襲性が低く畜種や投与回数に制約がない優れたホルモン処置プログラムやホルモン製剤の開発が可能となる。



KP10 : YNWN^SFGLRY-NH₂
 [dY]KP10 : [dY]YNWN^SFGLRY-NH₂
 [dS]KP6 : [dS]FGLRY-NH₂
 Ac-KP10 : Ac-YNWN^SFGLRY-NH₂
 Ac-KP6 : Ac-SFGLRY-NH₂
 オクタン酸側鎖付KP10 : YNWN^S(n-octanoic acid)FGLRY-NH₂
 オクタン酸側鎖付KP6 : S(n-octanoic acid)FGLRY-NH₂

様々な修飾条件下キスペプチン刺激による培養ウシ下垂体前葉細胞からのLH分泌反応を指標としたキスペプチン活性評価結果

◆ お問い合わせ先 ◆

有限会社山口ティー・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail: tlojim@yamaguchi-u.ac.jp